

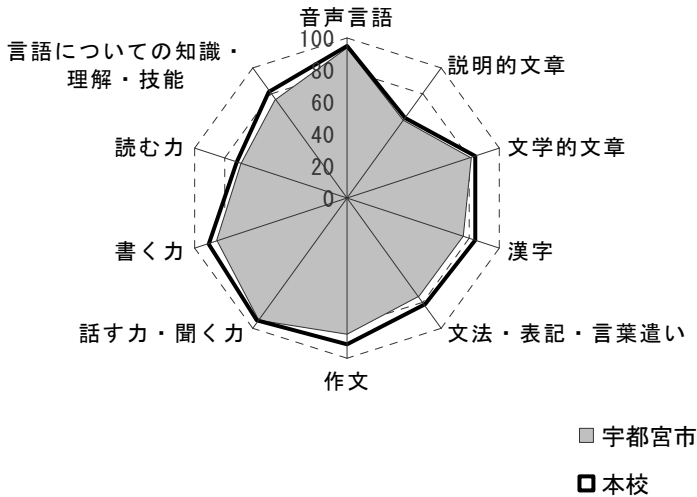
3 学年国語

1 結果

(1) 領域別・観点別平均正答率 (宇都宮市と本校の状況)

■平均正答率

		宇都宮市	本校
領域別	音声言語	93.7	95.4
	説明的文章	59.7	62.3
	文学的文章	81.4	83.5
	漢字	76.5	83.2
	文法・表記・言葉遣い	76.7	82.1
	作文	84.7	91.5
観点別	話す力・聞く力	93.7	95.4
	書く力	84.7	91.5
	読む力	70.6	72.9
	言語についての知識・理解・技能	76.5	82.9

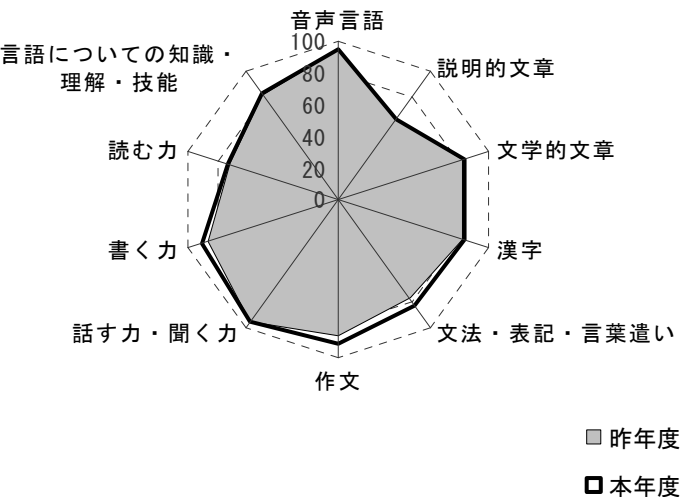


受検人数	宇都宮市	本校
	4003 人	194 人

(2) 領域別・観点別平均正答率 (平成19年度と平成18年度の状況)

■平均正答率

		本年度	昨年度
領域別	音声言語	95.4	94.4
	説明的文章	62.3	62.9
	文学的文章	83.5	82.2
	漢字	83.2	82.4
	文法・表記・言葉遣い	82.1	76.8
	作文	91.5	86.7
観点別	話す力・聞く力	95.4	94.4
	書く力	91.5	86.7
	読む力	72.9	72.5
	言語についての知識・理解・技能	82.9	80.5



受検人数	本年度	昨年度
	194 人	208 人

※平均正答率の状況から、今後指導の重点を置くべき領域や観点を明らかにし、指導の工夫・改善を図っていきます。

2 指導の工夫・改善（3年国語）

領域 (平均正答率)	平成19年度の状況	今後の指導の重点
音声言語 (95.4%)	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度同様、正答率が90%を越えており、昨年度から更に伸びている。確実な学力が身につけていると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も目的や場面に応じて、的確に話したり、聞いたりする能力を身に付けさせたい。 ・話すことへの関心は高いので、相手の意図を正確に聞き取ることへの意識付けもしっかりしたい。
説明的文章 (62.3%)	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度より若干伸びているが、領域の中では、落ち込みが目立つ。今後の本校国語科教育の重要課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の意図や主張を的確にとらえるために、まずは、事実と推論、意見を分けることを意識させたい。そして、筆者の意見を支える根拠は何かをとらえさせたい。 ・論の展開の仕方をとらえるため、文章全体の構成も授業で確認していきたい。 ・自分の意見を持つことで、理解を深めさせた。（作文との関連を図る。）
文学的文章 (83.5%)	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度同様、正答率が80%を越えており、昨年度から更に伸びている。おおむね良好な結果が得られているといえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の心情の理解を深めるため、情景描写にも注目させ、総合的にとらえさせたい。 ・表現技法を使った表現が何を表しているかも考えさせた。 ・感想を書くことで、理解を深めさせたい。（作文との関連を図る。）
漢字 (83.2%)	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の3年生より正答率が1.2ポイント上がっている。また、2年時の正答率が76.8%であったことから比べると大きな進歩である。 ・計画的に行った小テストの効果があらわれたと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も計画的に小テストを行い、新出漢字の習得はもとより、既習漢字についても漢字の読み書きの定着を図りたい。 ・教育漢字1006文字の習得に力を入れていきたい。
文法・表記 言葉遣い (82.1%)	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の3年生より正答率が5.3ポイント上がっている。しかし、2年時の平均正答率が82.8%であったことから比べるとわずかであるが下がっている。 ・文法の学習については苦手意識を持っている生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の授業の中で適切な言葉遣いや正しい表記についての基礎力を身につけさせたい。 ・文法学習の授業において様々な文例を用意し理解が深まるよう指導を工夫すると共に、問題集を使って知識の定着を図りたい。
作文 (91.5%)	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の3年生より正答率が4.8ポイント上がっている。また、2年時の正答率が68.6%であったことから比べると大きな進歩である。 ・本年度は伝え合う力の育成を目指し、意見文を数多く書く練習をした効果があらわれたと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も短作文指導を数多く取り入れ、書くことに慣れる指導を継続して苦手意識をなくしていきたい。 ・伝えるためにはどのように文を組み立てていくことが良いのかと意識し、文章構成を考えて書く指導を行っていきたい。